

# 栃木県農業試験場いちご研究所 ニュースレター 第5号

## <本号の内容>

- 試験研究：いちご新品種「栃木 i37 号」の育成
- 生産・流通・消費：いちご収穫量 50 年連続日本一の歴史 (2)
- トピックス：「いちご王国」プロモーションイベント
- いちごの“そうか!”：いちごの仲間はず?



いちご研究所では、研究成果や生産・流通などに関する情報を皆様に分かりやすくお伝えするため、「いちご研究所ニュースレター」を発行しています。

今号は、いちご新品種「栃木 i37 号」やいちご収穫量 50 年連続日本一の歴史について紹介します。

## 試験研究：いちご新品種「栃木 i37 号」の育成

多収で食味が良くいちごの重要病害である萎黄病に耐病性を持つ新品種「栃木 i37 号」を育成し、平成 30 (2019) 年 11 月に「栃木 i37 号」として品種登録出願公表されました。主な特徴は以下のとおりです。

### ○優れた収量性

収穫開始は「とちおとめ」より早く、総収量は 2~3 割程度多くなります。1 果重は約 20 g (「とちおとめ」は約 15 g) と大きく、パック詰め作業にかかる調整労力が軽減されます。

### ○優れた果実特性

果形は円錐形で、半分に切るとハート形をしています (写真 1)。果色は「とちおとめ」と同等の鮮赤色で光沢があります。糖度は「とちおとめ」と同程度で、酸度がやや低くジューシーで食味は良好です (表 1)。

### ○優れた栽培性

草勢は旺盛で、厳寒期にも低下しにくいのが特徴です (写真 2)。いちごの重要病害である萎黄病に対する耐病性は「とちおとめ」より高く、炭疽病に対する耐病性もやや高いため、作りやすいと考えられます。



写真 1 栃木 i37 号

今後は、さらに特性を解明するとともに、「栃木 i37 号」の能力を最大限発揮できるよう、栽培技術の確立に取り組んでいきます。

表1 栃木 i37 号の果実品質

品種名	1果重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (%)
栃木 i37 号	20.2	9.9	0.50
とちおとめ	15.2	10.1	0.60

(農業試験場ニュース No.379 平成 31(2019)年)



写真2 栃木 i37 号の着果状況

## 生産・流通・消費:いちご収穫量 50 年連続日本一の歴史(2)

農林水産省の統計で、本県がいちごの収穫量 50 年連続日本一となりました。これまでの栃木のいちご栽培の歴史について、前号に続き紹介します。

### 1 「女峰」誕生(昭和 60 年代)

昭和 60(1985)年に本県が品種開発した「女峰」の登場により、育苗技術の開発と合わせて、クリスマス時期の出荷が実現しました(写真 3)。

昭和 62(1987)年に夜冷育苗施設の導入が始まると、出荷開始時期は 11 月上旬にまで早まり、いちごの収益性は飛躍的な向上を遂げました(写真 4)。

「女峰」は、平地育苗でも 12 月から出荷でき、高価格で販売されたことから急速に普及し、昭和 63(1988)年産では県内の全作付面積の 90%に達しました。平成 9(1997)年産まで、国内トップの作付率を誇り、「栃木の顔」として消費者に親しまれました。



写真3 女峰



写真4 夜冷育苗施設

## 2 「とちおとめ」誕生(平成元～10年)

平成 8(1996)年に本県が開発した大粒で食味の良い品種「とちおとめ」は、収穫量の向上と収穫作業の省力化に貢献しました(写真5)。

「とちおとめ」は、平成 13(2001)年産では県内の作付面積の 95%に達しました。また、果実が「女峰」よりも大粒で甘みが強く、果肉がしっかりしていることから、県内にとどまらず、東日本を中心に急速に作付面積が拡大し、いちごの代表的な品種となりました。



写真5 とちおとめ

## 3 いちご王国とちぎ(平成10年～)

平成 18(2006)年、当時の過去最高となる産出額 269 億円達成を機に「いちご王国とちぎ」を宣言し、平成 20(2008)年には全国初の「いちご研究所」を設立しました(写真6)。

平成 28(2016)年、産出額が過去最高の 285 億円、平成 29(2017)年産で収穫量が 50 年連続の日本一となり、名実ともに「いちご王国」となりました。

品種は、平成 13(2001)年に観光用品種「とちひめ」(写真7)、平成 23(2011)年に夏秋どり品種「なつおとめ」(写真8)、平成 26(2014)年に高級贈答向けの「栃木 i27 号(スカイベリー)」(写真9)が品種登録されるなど、本県では需要に応じた品種を開発してきました。



写真6 いちご研究所



写真7 とちひめ



写真 8 なつおとめ



写真 9 栃木 i27 号 (スカイベリー)

#### 4 いちご王国とちぎ 50 年から 100 年へ(令和元年)

新品種「栃木 i37 号」(写真 1) や白い  
いちご「栃木 iW1 号」(写真 10) が品種登  
録出願中で、令和時代の「いちご王国」  
の一層の発展に寄与することが期待され  
ます。



写真 10 栃木 iW1 号

(参考：栃木いちごの歩み)

### トピックス:「いちご王国」プロモーションイベント

いちごの収穫量が半世紀に渡って日本一の「いちご王国・栃木」では、生産者をはじめ農業団体や企業などが一体となって、いちごを楽しむ様々な機会をつくり、栃木のいちごのファンを増やすため、いちごをテーマとした「いちご王国」プロモーションを開催しました。

1月15日に、1周年となる「いちご王国・栃木の日」アニバーサリーフェアを開催し、同日から3月14日のホワイトデーまでの2か月間を集中プロモーション期間とし、県内をはじめ首都圏や関西圏で「いちご王国」の魅力を発信するイベントを開催しました(写真11、12、13)。

また、「いちご王国」プロモーションの一環として、ホームページを活用した「いちご王国・栃木」検定を開始し、3月9～10日の「花と苺のフェスティバル」において、マスター級の検定を実施しました(図1)。

当研究所からも各イベントにおいて、栃木のいちごの魅力についてPRしました。

・「いちご王国・栃木」検定

<https://www.agrinet.pref.tochigi.lg.jp/ichigooukoku/kentei/>



写真 11 Happy Valentine 阪神の“いちごとチョコ”フェス



写真 12 「いちご王国・栃木」フェア in Tokyo



写真 13 「いちご王国・栃木」フェア in Osaka



図 1 「いちご王国・栃木」検定 マスター級試験問題・認定証

## いちごの“そうか!”:いちごの仲間は何?

そう果<sup>※</sup>(果実表面のツブツブ)を播種して生育させると「多様性を示すように、「そうか!」と思えるような様々な豆知識等」を紹介します



いちごはバラ科 *Fragaria* 属の植物で、いちごはバラ科の仲間になるよ。

バラ科の他の仲間には、りんごやももがあるよ。花の形を比べてみてね(写真14)。

ちなみに、いちごの花びらの数は、5枚が基本数だけど、株の栄養状態によっては、10枚以上になることもあるよ。



写真14 バラ科の花(左:いちご、右上:りんご、右下:もも)

栃木県農業試験場いちご研究所ニュースレター第5号

令和元(2019)年6月13日 発行



発行 栃木県農業試験場いちご研究所

※本ニュースレターの無断転載を禁止します

〒328-0007 栃木県栃木市大塚町 2920

TEL: 0282-27-2715

FAX: 0282-27-8462

E-mail: [nogyo-s-ichigo@pref.tochigi.lg.jp](mailto:nogyo-s-ichigo@pref.tochigi.lg.jp)

URL: <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g61/>

※いちごの実の表面のツブツブを「そう果」と言います。「そう果」はいわゆる種子で、「そう果」から育てたいちごの苗は1株、1株が異なる性質を示します。